

カナダで英語短期研修を実施



カナダの
英語研修に
参加して
高等部2年 趙里奈
(写真左)

カナダの一週間は、まさに言葉通り「夢」のようでした。私にとって、初めての飛行機での旅行で、韓国以外に海外も行ったこともなく、不安よりも楽しみな気持ちの方が強かったです。カナダで見るものは、すべてが新鮮で映画やテレビで見るような光景が日常でした。学校での生活は毎日が驚きでした。本当にりんごやバナナを丸かじりしながら歩いている人もいたし、仮装している人もいました。

最終日は、みんなで宿に泊まりワイワイ過ごせたし、カナダで友達もたくさんでき、この研修は大満足でした。



韓国・オユ中学校生徒、KIS訪問



2010年10月25日、韓国の坡州市にあるオユ中学校の中等部1年生から3年生まであわせて30名の生徒が、KISを訪問しました。オユ中学校は、全校生徒が、わずか39名といつた小さな学校ですが、生徒一人ひとり、とても元気はつらつとした生徒たちばかりでした。

そんなオユ中学校の雰囲気に同世代の本校の生徒たちもすぐに打ち解けて、一緒にゲームや話に興じるなど交流と親睦を深め、各自楽しい時間を過ごしました。

2010年9月14日（火）から9月23日（木）にかけて高等部1年生と2年生は、短期英語研修としてカナダを訪れました。研修地は、去年と同じカナダのバンクーバー市からバスとフエリで4時間のところにあるソールトスプリング島という海と森の大大自然に囲まれたところです。生徒たちは、現地の高校生とともに授業に参加した後、午後からは、郊外学習としてカヤック体験やホエールウォッチングなどの体験学習をしました。

また、宿泊先は、生徒一人ひとりが、地元のホストファミリーに迎えられてホームステイを行いました。今年は、高等部1年生と2年生の合同の研修旅行でした。1年生は、KISへ入

学してまだ半年しかたっていませんが、日頃から一生懸命学んでいる英語力を生かして、コミュニケーション面でも積極的にチャンレンジして、とも楽しい思い出ができるようです。また、ホストファミリーと地域の秋祭りにも一緒に参加し、各自的のホストファミリーや地域の方たちと過ごした日々は忘れられない日々になつたようでした。

生徒たちも世界各国からカナダの研修地に来ていた同世代の生徒たちと交流を深め、国際的な交友関係も広がり、今回も「楽しくて、日本に帰りたくない」という声が聞こえるなど、とても有意義な英語研修となりました。

第3回 KIS文化祭を開催～多彩な文化発表と模擬店



午後から近くの豊川いのち愛ゆめセンターで行われた2部では、参加者が200名を越えるなか、俳優の黒田福美さんのスペシャルトークに続いて生徒たちの文化発表が行われました。芸能界一の韓国通と言われる黒田さんのトークは自らの韓国との出会いを通じたエピソードを紹介しながら、KIS生徒たちの未来の活躍にエールを送る

200名を越えるなか、俳優の黒田福美さんのスペシャルトークに続いて生徒たちの文化発表が行われました。芸能界一の韓国通と言われる黒田さんのトークは自らの韓国との出会いを通じたエピソードを紹介しながら、KIS生徒たちの未来の活躍にエールを送る

ものでした。

その後、生徒たちのステージ発表では、息がぴったり合った高等部3年のサムルノリの演奏に続き、舞踊部による流麗な三鼓舞&ソルチヤンゴが披露され、中等部2年はオリジナル劇「三匹の仔豚」を英語、コリア語、日本語を使しながら、ユーモアたっぷりに演じました。続いて迫力あるテコンドー部の演武のあとは、高等部2年の女子によるダンス。K-POPに合わせて軽やかに踊る姿に大きな拍手が送られました。

高等部1年のしぶい？ バンド演奏の次は、これまたオリジナルシナリオによる演劇「西遊記」を中等部1年が演じました。その独創的なシナリオと「吉本」流のギャグ連発に、会場では何度も爆笑が起きました。会場の隅で、ハラハラした表情で劇を見つめる教員の姿もありました。

中等部3年のダンスは庄重。個性派の多いこのクラス。キレのある動きと、意外にも？ 一体感のある素晴らしいダンスに会場は大歓声でした。続く軽音楽部が奏でる南北コリアの統一を願う歌「ハナ」を熱唱する生徒の歌声に、参加者たちは胸を熱くしました。文化発表の最後は、生徒全員で音楽教員が作詞・作曲した「タウムンネガ（つぎは私が）」を合唱して幕を閉じました。



国際色豊かに、第1回豊川フットサル大会を開催

台風の接近で開催が危ぶまれていた「とよかわフェスタ2010」（主催・豊川中学校区青少年健全育成運動協議会ほか）が開催されました。今年10回目を迎える同フェスタは、地域・家庭・学校のつながりを深め、地域全体での子育てを推進することを目的として開催されました。前回からKISも実行員会に入り準備に協力してきました。

この日、KISからは、生徒によるテコンドーと伝統舞踊「三鼓舞」のステージ発表が行われ、模擬店では保護者らでつくれているKSSC（KIS生徒サポート俱楽部）による本格キムチの販売が行われました。



地域の住民、イスラム教徒の方々との交流会に参加

試合終了後には、地域の高齢者の方々も参加する中、KIS校内で準備してくださいました。料理や各国参加者が持ち寄った料理を食べながら、交流と親睦を深めました。KISの生徒たちにとっても、国籍や民族や文化や宗教、職種や年代などが異なる多様な人々と、自然な雰囲気の中で交流する機会につながり、コミュニケーション力を育む貴重な学習機会になりました。



地域の「とよかわフェスタ2010」に参加

あいにくの雨模様の中、地元の豊川中学校の体育館で行われたステージ発表では、迫力あるテコンドーの演武と流麗な三鼓舞の披露に、観客からは大きな拍手が送られていました。キムチの販売も好評で、2時間ほどで完売しました。

こうした地域の取り組みへの参加は、生徒たちにとっても授業では得られない貴重な体験学習の場であることを、あらためて実感させるものでした。



地元の小学校と活発に交流

KISからは、音楽の授業で習った韓国ドラマ「チャヤングムの誓い」の主題歌を民族樂器を使って演奏しました。郡山小学校の子どもたちは、はじめて見る民族樂器に興味津々の様子でした。途中にKISの朴永昇先生の素晴らしい独唱もあり、大いに場を盛り上げました。

最後は全員で記念写真を取り、学校に帰る子どもたちをKISの中高生、教員らが見送りました。とても心温まる時間となりました。郡山小学校の子どもたちの「カムサハムニダ」の大きな声と、「中学生になつても、機会があればKISに来てね」と声をかけるKIS中高生。こうした小さな国際交流の積み重ねの大切さを実感したひと時でした。



台風の接近で開催が危ぶまれていた「とよかわフェスタ2010」（主催・豊川中学校区青少年健全育成運動協議会ほか）が開催されました。今年10回目を迎える同フェスタは、地域・家庭・学校のつながりを深め、地域全体での子育てを推進することを目的として開催されました。前回からKISも実行員会に入り準備に協力してきました。

この日、KISからは、生徒

によるテコンドーと伝統舞踊

「三鼓舞」のステージ発表が行

われ、模擬店では保護者らでつ

くらでいるKSSC（KIS生徒サポート俱楽部）による本

格キムチの販売が行われまし

た。

あいにくの雨模様の中、地元の豊川中学校の体育館で行われたステージ発表では、迫力あるテコンドーの演武と流麗な三鼓舞の披露に、観客からは大きな拍手が送られていました。キムチの販売も好評で、2時間ほどで完売しました。

こうした地域の取り組みへの

参加は、生徒たちにとっても授

業では得られない貴重な体験学

習の場であることを、あらためて実感させるものでした。

小学校の3年生がKISを訪問し、中等部3年生と交流と親睦を深めました。豊川小学校の子どもたちは、コリア語の朴永昇先生から簡単なコリア語での自己紹介や韓国の伝統遊びなど異文化について楽しく学びました。こうした地元の学校との交流事業も毎年恒例となりつつあります。

また12月22日（水）には、地元の郡山小学校6年生が午前中KISを訪問し、音楽を通じて交流を行いました。とても温かい雰囲気のなかでの交流となりました。この日、KIS中高生を前に、同小学校の子どもたちは、コリアの童謡「故郷の春」を日本語とコリア語で合唱したのに続き、「翼をください」などを歌い、KIS生徒たちから大きな拍手を受けました。

KISからは、音楽の授業で習った韓国

ドラマ「チャヤングムの誓い」の主題歌を民

族樂器を使って演奏しました。郡山小学校

の子どもたちは、はじめて見る民族樂器に

も興味津々の様子でした。途中にKISの

朴永昇先生の素晴らしい独唱もあり、大い

に場を盛り上げました。

最後は全員で記念写真を取り、学校に帰

る子どもたちをKISの中高生、教員らが

見送りました。とても心温まる時間となり

ました。郡山小学校の子どもたちの「カム

サハムニダ」の大きな声と、「中学生に

なつても、機会があればKISに来てね」

と声をかけるKIS中高生。こうした小さ

な国際交流の積み重ねの大切さを実感した

ひと時でした。



2010年10月24日（日）、大阪城公園太陽の広場で開催された第26回ワンコリアフェスティバルにKISテコンドー部の生徒が参加し、1千名を越える観衆の前で迫力ある演武を披露しました。テコンドー部を指導する全徹寿先生の指示のもと、演武や試割に臨んだ生徒たちは緊張しながらも日頃の練習の成果を十分に発揮しました。

試割の際には、観客から「オー」という驚きの声も上がっていました。大勢の観客の前でステージに立った生徒たちにとっても、貴重な経験となりました。この日、会場には出店やフリーマーケット会場もあり、1万人を越える参加者でぎわっていました。

ワンコリアフェスに参加



2010年11月23日（火）に開催された「第2回オール関西テコンドーオープンマッチメント」（主催：日本国際テコンドー連盟関西本部）でKISテコンドー部の生徒たちが登場し、見事な成績を収めました。KISテコンドー部としては初の対外試合でした。

この日の試合では、中等部1年の李庚鎧君（型・白黄色帯）、高等部3年の金徳済君（組手・中高生男子無差別級）、中等部2年の朴苑善さん（組手女子フレッシュ級）が優勝しました。特に李庚鎧君は大会全体の中でも敢闘賞を受賞しました。他のテコンドー部の生徒たちも健闘しました。

初の対外試合で大活躍



**KISテコンドー部 指導員
全徹寿先生のコメント**

子どもたちが大人に成長していく上で、克己心を育むことはとても大切なことだ。将来的に、KISからテコンドーの日本チャンピオンや世界チャンピオンを輩出するのが夢だ。

テコンドーを通じて、技術面よりも精神面で自分に向かう強い心をつけてほしい。これから子どもたちが成長していく上で、克己心を育むことはとても大切なことだ。

「正解」を追い求める「キャッチアップ」型から 「問題」解決に向けた「フロントランナー」型の人材育成へ

「たくましい創造力」の育成

グローバル化と成熟社会が進む中で、多様な他者（世代・価値観、職種など）との出会いと学びを通じて、生徒自身の学ぶ意欲を引きだし、KIS教育の特徴の一つである「たくましい創造力」を育成します。

そのために社会の第一線で活躍するゲスト講師を招き、身近なテーマからリアルな現実社会を学びます。

大学ゼミ方式の授業展開

KISの建学の精神と教育理念にそって専門のコーディネーターのもと、生徒たちの「読む力」（情報リテラシー）、「考え方」（論理力／判断力）、「組み合わせる力」（編集力／コーディネート力）、「表現する力」（コミュニケーション力／共感力）を育成します。授業は、KISの少人数クラスの環境を生かし、大学のゼミ方式で進められます。

2010年11月1日（月）の高等部の授業では、戸塚悦郎先生（前龍谷大学教授）を招いて「リーガルマインドとは何か～韓国併合条約の効力をめぐって」をテーマにして学習しました。弁護士であり、また国際人権NGOでも活動経験の豊富な戸塚先生から、リアルな経験に裏打ちされた授業が行われました。



1限目の授業では、「リーガルマインド」をテーマにして英語による講義がなされました。すべて英語で行われた授業でしたが、高等部の生徒たちは、普段の英語授業等で慣れているせいもあり「8割くらいは理解できたよ」との感想も聞かれました。

2限目の授業では韓国併合100年目を迎えるなか、その原点である「韓国併合条約の効力をめぐって」と題した講義が日本語で行われました。授業では



は、大阪芸術大学教員の北口学さんを講師に招いて、「世界のマイノリティと出会う～国家・民族・国際人権とは～」をテーマにした授業が行われました。北口さんは、国際人権NGOやJICAのメンバーとして世界各地の被抑圧マイノリティの人権・環境問題の調査やドキュメンタリー番組の制作を通じた豊富な海外経験について語りました。

2010年11月21日（月）の授業では、大阪芸術大学教員の北口学さんを講師に招いて、「世界のマイノリティと出会う～国家・民族・国際人権とは～」をテーマにした授業が行われました。北口さんは、国際人権NGOやJICAのメンバーとして世界各地の被抑圧マイノリティの人権・環境問題の調査やドキュメンタリー番組の制作を通じた豊富な海外経験について語りました。

世界のマイノリティと出会う



▲ 2010年12月6日 LA授業
沖縄と米軍基地（講師：都裕史）



▲ 2010年11月1日 LA授業
アクションワークショップ（講師：金湖蓮）

きない。また、現地の人々の中に友人として飛び込んでいくことができるコミュニケーション力が求められる、それが教育だと思う。英語が話せるだけでは、あまり意味がない。経験に裏打ちされた北口さんのリアルな話に、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。授業を終えた後も、国際協力に関心を持つ生徒たちとの談笑が続きました。